

会議要旨

【開催概要】

会 議 名 称	令和4年度 第2回富田林市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和5年2月17日（金）13:30～14:30
開 催 場 所	富田林市きらめき創造館Topic 2階 グループ活動室
出 席 委 員 (名簿順表記)	・井上委員（会長）・峯委員・恒川委員（副会長）・吉田委員 ・福田委員・永田委員・辻野委員・大道委員・竹田委員・森委員 ・廣崎委員・岩井委員・松田委員・北代委員 (計14名)
欠 席 委 員	・原委員・岡野委員・北谷委員・多加谷委員
事 務 局	こども未来室：寺元室長(子育て福祉部付部長)、辻野次長、 小島課長、森参事、谷田課長代理、廣谷、佐藤、今井 教育指導室：山口参事
会 議 次 第	1. 開会 2. 委員および事務局自己紹介 3. 会議の公開および会議記録の作成について 4. 案件 (1) 富田林市子どもの貧困対策計画（素案）に対するパブリック コメントの実施結果について（案） (2) 富田林市子どもの貧困対策計画（素案）の修正点について 5. その他 6. 閉会
公 開 / 非 公 開	公開
傍 聴 者	1人
そ の 他	なし

【議事要旨】

	<p>1. 開会 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども未来室長より挨拶 <p>2. 委員および事務局自己紹介 (各委員および事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料確認 ・会議成立要件の確認 (委員 18 名中、過半数を超える 14 名が出席のため成立) <p>3. 会議の公開および会議記録の作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議は、引き続き原則公開とする。 ・会議記録についても、引き続き要旨記録として作成し、市ウェブサイト等で公開する。 <p>4. 案件 (1) 富田林市子どもの貧困対策計画(素案)に対するパブリックコメントの実施結果について(案)</p>
事務局	<p>●資料2「富田林市子どもの貧困対策計画(素案)に対するパブリックコメントの実施結果について(案)」の説明 (説明省略)</p>
会長	<p>◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。</p>
事務局	<p>●事務局からの提案 資料2「3. 施策の方向性に関すること」のNo. 11、No. 12は同一の方からの意見、また、No. 13～No. 15も同一の方からの意見となっており、その意見に対する市の考え方もすべて同じ回答となっている。市民の方により分かりやすい表記となるよう、No. 11とNo. 12を1つの意見としてNo. 11に、同じくNo. 13～No. 15をまとめてNo. 12にしたいと考えているが良いか。</p>
会長	<p>◇事務局からの提案について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。 (意見等がなく、事務局の提案のとおり修正する)</p>
事務局	<p>(2) 富田林市子どもの貧困対策計画(素案)の修正点について ●資料3「富田林市子どもの貧困対策計画(素案)パブリックコメント後の修正点」の説明 (説明省略)</p>
会長	<p>◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。 (意見等なし)</p>
事務局	<p>●修正点を反映した計画案を作成し、市役所内部の合意を得て最終的な計画書とする。最終の富田林市子どもの貧困対策計画書は印刷製本し、3月下旬に送付する。また、市ウェブサイトにも掲載する。</p>

事務局	<p>5. その他</p> <p>(1) 令和4年度児童死亡事案検証結果報告書(富田林市事案)について</p> <p>●参考資料1「令和4年度児童死亡事案検証結果報告書(富田林市事案)【概要版】」、「令和4年度児童死亡事案検証結果報告書(富田林市事案)を受けての市長コメント」、「本市の2歳児死亡事案に対する取り組み」の説明 (説明省略)</p>
事務局	<p>(2) 市立幼稚園・保育所のあり方基本方針について</p> <p>●令和5年1月4日～31日まで市立幼稚園・保育所のあり方基本方針(素案)についてパブリックコメントを実施した。21通の意見があり、現在、整理中である。素案の内容については、市立幼稚園の合同保育による検証結果として、「配置する園の規模は1クラス当たり概ね20名が望ましい」という検証結果であった。次に、市立幼稚園及び市立保育所の両方の施設における具体的な再配置案を示していないことから、具体的な再配置については「令和5年度から速やかに進める」という内容となっている。この2点が大きなポイントである。素案については、市ウェブサイトで公開しているので、確認していただければと思う。また、基本方針の策定については令和4年度末を予定している。</p> <p>・令和5年4月開園「仮称：げんき桜桃(さくらんぼ)保育園」の進捗状況について</p>
事務局	<p>●新施設の種別は保育所、定員は74人、設置場所は甲田一丁目(現在のげんき桜こども園の隣)になる。運営主体は、社会福祉法人千早赤阪福祉会。建築工事は順調で、令和5年3月中の認可に向けて手続きを進めている。</p> <p>・令和6年4月開園予定の民間認可保育施設誘致の結果について</p>
事務局	<p>●決定した事業者は社会福祉法人光久福祉会、設置場所は伏山一丁目、施設種別は幼保連携型認定こども園、全体の定員は110人、幼稚園・保育所の定員の内訳は保育所部分が102人、幼稚園部分が8人となっている。</p>
会長	<p>◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。</p>
委員	<p>◇「令和4年度児童死亡事案検証結果報告書(富田林市事案)を受けての市長コメント」に記載している今年度に公立保育所に導入予定の保育システムについて説明を聞きたい。</p>
事務局	<p>●今年度に導入作業を進めており、保育園のシステムとして登降園管理、身長体重、保護者との連絡機能を構築しているところである。その中で、身長体重が成長曲線から大きく離れている場合、要保護児童地域対策協議会と連携して報告等ができるようになれば良いと考えている。</p>
委員	<p>◇そのように身長体重を数値化することで虐待のリスクを早期発見するシステムだと思うが、どこにも所属していない0～2歳の子どもがいる家庭への支援はどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>●例えば、保健センターが把握している乳幼児健診のデータを集める予定にしている。公立保育園では保育システムも活用し、保健センターと保育園システ</p>

委員	<p>ムのデータを重ね合わせることで、より細かく子どもの把握ができると考えている。</p> <p>◇保育所に通っている子どもについては日常的に把握できるが、家庭で子育てしている子どもの発育状況については健診時のみであり、それ以外の期間はどのようにアプローチや支援をするのか。</p>
事務局	<p>●本市はマンパワーが足りていない状況であったことから、順次、地区担当員を増員し、1人当たりのケース数を削減するよう取り組んでおり、1ケースに関わる丁寧さについては現在より緻密な形で進行していくと考えている。また、各機関の情報を1か所にまとめることで見えてくる部分もあると思うので、関係機関に協力いただく中で、より緻密な状態にもっていくことができると考えているが、今後の課題である。</p>
委員	<p>◇関係機関につどいの広場や地域子育て支援センター、幼教センター、子育てサロン等、地域との連携を広く視野に入れ、公的施設だけではなく、様々な機関との情報共有や連携を考えてほしい。また、出産・子育て応援交付金について、現金支給で終わるのではなく、国としてはすべての家庭において子育て支援サービスが受けられるように整備していくことを求めているので、迅速かつ丁寧に整備を進めていってほしい。保育所等に所属していれば保育という支援を受けられているが、在宅で子育てしている家庭は支援を受けられていない。すべての子どもが様々な機関と繋がり、子育て支援を受けられるような仕組みを作ってほしい。</p>
会長	<p>◇委員が考える具体的案はあるか。</p>
委員	<p>◇他の地域では、地域子育て支援拠点施設に行くと、何かもらえる仕組みになっている（ブックスタート事業の絵本やオムツ等）。物をもらえることで繋がるきっかけになるため良いのではないか。</p>
会長	<p>◇現場の方は具体的な案を持っていると思うので、市も意見を聞き取って反映していってもらえたら良いと思う。</p>
委員	<p>◇市立幼稚園の再配置について令和5年度から速やかに進めるということであるが、もう少し具体的に教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>●令和4年度に何人の集団が子どもたちにとって適した集団規模なのかという検証を行ってきた。検証方法として、1クラスの園児数が10人以下の園がたくさんあるので、園と園が行き来できるバスを用意し、隣の園と合同保育を行い、3～5歳のそれぞれの年齢の子どもたちにどれくらいの人数が適する集団であるかを検証してきた。その結果、概ね20人程度が市立幼稚園の1クラスの規模として良いのではないかと結果に至っている。この結果をもって、基本方針策定後に市立幼稚園の数の規模や、概ね20人の子どもたちの規模を確保するためにはどのように配置することが望ましいかを早急に見定めていくことになるが、令和5年度にどこかの園を閉めて数を減らすということではない。</p>
委員	<p>◇継続して合同保育を進めながら検討していくのか。</p>

事務局	●合同保育について、園から園の移動を含んだ合同保育を頻回に実施することが、子どもたちにとってマイナスに働いたという検証結果も出ているため、今後は月1回程度に回数を減らして実施していく予定をしている。
委員	◇合同保育はクラス単位で実施するのか。
事務局	●基本的にはクラス単位で実施するが、日々の幼稚園生活においては、同じ園の異年齢での合同保育を実施することにより一定の集団も確保したいと考えている。
会長	◇他に質問や意見はないか (意見なし)
会長	◇本日の案件については、以上とする。
事務局	●令和5年度は、第3期富田林市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、ニーズ調査を実施することから、会議は3回程度開催したいと考えている。 開催時期については、1回目を今年の夏頃に予定しているが、会長と相談のうえ、改めて案内する。
	6. 閉会
	以上